

1 日 時 令和6年7月4日(木) 18:30~20:49

2 場 所 旭川市総合庁舎会議室7B

3 出席者 後藤委員, 佐々木委員, 杉山委員, 長谷川(芳)委員, 長谷川(愛)委員, 靱岡委員
(事務局)行財政改革推進部 浅利部長,
行政改革課 梶山課長, 及川課長補佐, 水沢主査
公共施設マネジメント課 今野課長, 佐々木主幹, 清水主査
総合政策部 小澤次長, 財政課 今田課長補佐
(所管課)経済部 経済交流課 上田課長, 小久保主査

4 公開・非公開の別 公開

5 会議資料

次第

資料 1 北の恵み食べマルシェについて

資料 2 (仮)廃校施設の利活用に向けた基本方針(骨子)

6 議事要旨

(1) 開会

(2) 令和6年度全事業見直しについて

ア 対象事業の選定

前回選定した「北の恵み食べマルシェ開催負担金」を取り扱うこととした。

イ 対象事業に対する質疑・応答・意見徴収

事務局から「北の恵み食べマルシェ開催負担金」の事業概要を説明した後, 担当部局への質疑
応答の上, 協議した。

a 質疑応答

【委員】

来場者の約2割が市外から来るとのことだが, その内訳は分かるか。

【所管課】

令和5年度実績で, 市外から来る来場者全20%の内訳は道内15%, 海外を含む道外5%
である。

【委員】

事業者のアンケート結果など事業者の満足度が分かるものはあるか。

【所管課】

事業者からの聞き取りでは, 屋外イベントという特性から, 売上・満足度は天候に左右され
る。直近では, コロナ禍に飲食業界の離職者も多かったことから出店者数は減少したが, 出店
者からの満足度は高かったと認識している。

【委員】

スイーツが減ったとも思ったが、出店者の期待値が下がったわけではないか。

【所管課】

コロナ禍の影響から人のやり繰りが厳しくて出店できないことが主な理由と考えている。

【委員】

実行委員会の事業費の内容と市負担金の決定方法を教えてほしい。

【所管課】

実行委員会の事業費は、会場設営や広報、各種企画費などの経費から積算し、市も関わりながら実行委員会が決定している。市負担金は、積算した実行委員会の事業費予算と、企業からの協賛金や出店料などの収入との差額を賄う形で予算編成していく。

【委員】

4つの目的(中心市街地の賑わい創出／旭川の発展を支えてきた農業や食料品製造業の振興／北北海道各地域の農畜産物や海産物、加工食品等の販路拡大／旭川市をはじめとした北北海道の魅力の発信)があるとのことだが、そのために経済交流課は何をしているのか。

【所管課】

当課はイベント開催以外にも商談やマッチングの事業など様々なことをしている。その中で、食バマルシェは3日間のイベントであるため、北北海道の魅力の発信が主になっている。市が他事業も含めて支援している事業者が、開発した商品を多くの方に披露する機会として食バマルシェを使うなど、別事業とも関連し、全体として成果につながっていくと考えている。

【委員】

専用駐車場がないため、会場の買物公園に行くためのコストを負担と感じる。専用駐車場の設置は検討しているか。

【所管課】

市中心部のイベントであることから、専用駐車場の確保は現実的に難しく、民間の駐車場に駐車してもらっている。ただし、令和5年度においては、地域振興部の予算で「あさひかわタクシーおでかけチケット」という500円×2枚のタクシーチケットを配布し、タクシーの利活用を推進するなど、公共交通を使ってイベントに会場してもらうような取組をしてきた。

【委員】

タクシーチケット交付に当たり、タクシー料金が何円以上でなければいけないなどの条件はあったか。

【所管課】

そのような条件はなかった。

【委員】

令和4年度から常磐公園会場を使用していないのに市負担金の額は令和元年度とあまり変わっていないのはなぜか。

【所管課】

会場が縮小されているため、総事業費は下がるところであるが、物価や人件費の高騰に対応するためなどの理由から、このような市負担金の額とした。

【委員】

物価や人件費の高騰は続くであろう。市負担金はそれにつれて増えていく見通しか。

【所管課】

物価や人件費が高騰する中、同じ予算で同じイベントを実施することは難しくなっている。様々な見直しはしてきており、例えば、会場のごみステーションは50mごとの設置を100mごとに見直したが、結果として大きな混乱はなかった。このような見直しは常に進めているが、今後も物価高騰等が続けば見直しで対応することに限界があると考えている。

【委員】

本市以外の参加自治体には出店料以外の費用負担があるか。

【所管課】

民間事業者と同様の一律の出店料のほかには、自治体からは数万円規模の負担金を負担してもらっている。

【委員】

良いイベントと思うが、今後も人件費を含めて経費が増大する可能性がある中で財政事情も考えれば、将来的にどのようなものを目指すのかは考えなければならない。地域振興や産業振興の担当課ではなく経済交流課が担当しているが、経済交流の観点ではどう考えているか。いずれかの目的に特化させることは考えているか。

【所管課】

食ベマルシェは、来場者が北北海道には豊かな食があるのだと感じられるものになっていると思うが、民間にも様々なイベントがあることから、行政が単純に食のイベントを実施することにはならない。

経済部が担当している理由は、食ベマルシェが食産業の振興を目指しているからであり、このイベントは飲食をメインとしながらも、上川・留萌・宗谷の食産業を育て、その販路拡大を意識して続けていかなければならないと考えている。

【委員】

市負担金の費用対効果を高めたり、受益者負担の適正化という観点もある。例えば、道北その他の自治体からの負担金を増やすことはできないのか。

【所管課】

全てを把握しているわけではないが、他の自治体では、出店者への補助という形で支援している事例もある。

【委員】

相応の負担となっているか。仮にそうでなければ相応の負担をしてもらうべきと思う。

【委員】

BtoCの観点では、食べる環境をもっと整備してはと思う。食べる場所の活気を高める工夫はどうしているのか。

【所管課】

飲食店が並ぶ中、例えばラーメンやそばでは給排水設備が必要になるなど、会場設営上の制約も多い。

【委員】

参加する立場では、いい環境で食べたいという思いもある。オータムフェストでは落ち着いた素敵な環境や来場者を惹きつける場所がある。このようなアイデアもあるとよい。

【所管課】

実行委員会に所属する企画委員会で類似意見もあったところであり、そのような環境を作れるよう検討していきたいと考えている。直近2・3年でいえば、コロナ禍であったため飲食スペースでの滞留を避けるべく両側出店を片側出店にしたことで、落ち着いていられるようになったとの声もあった。

【委員】

あえて厳しい聞き方をするが、単なるお祭りになってはいないか。つまり、販路拡大や魅力発信などの事業目的にも見合ったイベントになっているか。経済部としてはどう評価しているか。

【所管課】

これまでに12回実施し、市を代表する秋のイベントとして定着している。このイベントは食産業の発展を考えていくものであり、厳しい財政状況にあっても期待に応えて発展させていきたい。まちなかの賑わいという意味では、買物公園の賑わいが減ったという声があり、時代が変わりニーズが変わってきたこともあるだろうが、この3日間で良いものを知ってもらうことを含め、様々な取組の中で商店街振興や中心市街地活性化を進めていきたい。

b 意見協議

【会長】

事業の実施自体に反対という委員はいるか。

【全委員】

(反対の声なし)

【会長】

次に、事業の目的はこれでよいのか。あるいは、事業目的に沿った内容になっているかという点はいかがか。

【委員】

BtoCのイベントだと言われれば理解できるが、販路拡大とは何をどこまで考えているのかははっきりしなかった。事業者は本当に販路拡大を目的に出店しているのか。

【委員】

出店する事業者としては、目的が何かと聞かれればやはり販路拡大なのではないか。しかし、来場者の8割を市民が占める中で、事業の目的どおりの販路拡大の成果が挙がっているのか疑問がある。市外への販路拡大の要素が強まるとよい。

【委員】

来場者の2割しか市外から来ていないということは、食べマルシェのために来る観光客が少ないともいえる。観光客にとっての魅力を高めることも重要。観光全体の視点で計画することが結果的に販路拡大という目的に最も利するかもしれない。例えば、海外のアジア圏の旅行者に対する戦略はどうなっているのか。全体のプロモーションをもっと上手くやってほしい。

【委員】

1回目は開村120年記念事業で市民のためのイベントだったとのことだが、2回目からは販路拡大などを含めた目的を設定したのであれば、市外の方をどれだけ呼べるかを重視し、取り組むべきではないか。

【委員】

買物公園を中心にかなり縦長の会場だが、他の形にならないのか。また、発想を変えて、BtoBのマッチングと考えれば、菓子博のように大雪アリーナで開催し、マッチングイベントなども実施できればバイヤーも呼びやすいのではないか。

【事務局】

買物公園は道路のため緊急車両が入れるスペースを確保しなければならないことも会場設営上の制約となる。他の道路を使うということなら道路占用許可・使用許可のため別途協議が必要になる。また、まちなか活性化事業基金を使っていることから、中心市街地の賑わい創出や活性化も重要な目的となっている。

【会長】

事業費についてはいかがか。

【委員】

もっと増やすことはできないのか。

【事務局】

市の他の事業費を絞ってということであればできなくはないが、一般財源でいえば令和6年度は令和5年度よりも少し増えている。基金は残高が減少してきている。出店者当たりの売上が増加傾向であれば出店料を見直すという考えもあるかもしれない。

【委員】

出店料を上げることを考えてもよいと思う。市全体の財政を考えると、一般財源は増やさずにできればよい。

【会長】

それでは、委員会の意見としては次のように求めることとしてよいか。

- ・事業目的には、農業や食糧品製造業の振興、北北海道各地域の農畜産物や海産物、加工食品等の販路拡大があることから、市内のみならず市外・道外からの更なる集客等について戦略的に検討すること。

- ・基金残高の減少等を踏まえて、出店者が相応の負担をしているか、主旨に賛同する自治体からの費用負担を増やせないか等の視点から、一般財源以外の事業費確保に努めること。

- ・市民及び来場者にとってより魅力的なイベントに発展していくよう、会場設営等の工夫を継続すること。

【全委員】

(了承)

(3) 廃校施設の利活用に向けた基本方針について

ア 廃校施設の利活用に向けた基本方針の概要

イ 廃校施設の利活用に向けた基本方針決定までのスケジュール

事務局から前回説明した内容について、質疑応答の上、協議した。

【委員】

この事業に限らずだが、本市は細かく課が分かれているため、庁内でしっかり連携して進める必要がある。

【事務局】

企業立地の担当部署を通して、企業側から広い更地の方が使いやすいとの意向も伝えられることがあり、そうした声に対しても関係部局で連携・サポートしながら進めていきたい。

【委員】

地域の思いや意向も大事に考えて進めてもらう必要はあるが、例えば、更地にすることも選択肢だと思う。1校当たりの年間維持費と解体費はどの程度か。

【事務局】

大まかな概算だが、今の7校で年間維持費が1,000万円ほど、解体費はある程度の大きさの廃校1校で3億円ほどとなる場合もある。

なお、地域の意向を踏まえながら利活用を進めるため、廃校利活用に当たり、プロポーザル実施時等には事業計画書などを提出してもらっており、内容は地域も理解している。また、利活用開始後には、事業計画通りに利活用が進められているかを確認していくこととなる。

【委員】

解体費が維持費の累計額を下回るには10年を超えるかなりの年数がかかると理解した。確認するが、廃校になるということは普段は使用されていないということか。

【事務局】

管理人もおらず、基本的に普段は使用されない。体育館などを一時的に使う事例は少なからずある。

【委員】

理想的なのは、早めに民間に売却することだが、難しければ短期の貸付けもよいのではないか。最もこのような用途に使いやすい状態の施設を選定し、集中的に整備して短期の貸付けに使うのはどうか。音響設備や規模からニーズがあるかとも思う。

【事務局】

体育館などの短期の貸付けは、申出があればなるべく対応してきている。廃校施設には大きな維持費がかかっていることから、まずは貸付けより売却を優先して、それが難しければ有償貸付け等も考えていきたい。廃校の利活用で長期の事業が生まれれば、雇用や経済も動いていくほか、売却であれば新たな所有者からの固定資産税が入ることになる。測量や登記など時間がかかることもあるが、官民でしっかり考えていきたい。

【委員】

建物の設備について、他市の廃校利活用施設で老朽化による臭いが気になったことがあるが、この辺はどうなるのか。

【事務局】

施設の臭いについては、配管が古くなっている所などがあるかもしれないが、原則として現状のままで売却・貸付けになる。

【委員】

実際に廃校利活用に関わった経験のある知人から、建物の頑丈な構造、騒音などの周囲とのトラブルを回避できる環境、企業等の様々な利用が想定されていたことに魅力を感じ、施設設備の老朽化や引き渡しの調整に欠点を感じたと聞いた。このような実例から次につなげるほか、どこに魅力を感じたのかという意見や、他の市町村の成功事例をどんどん発信することが重要だと思う。

【事務局】

各施設の立地等も生かしてPRしていきたいと考えている。どういう方がどういう規模の施設を望むのかもバラバラなので、それぞれの施設の特徴をしっかりと発信することが必要だと思っている。

【委員】

市のHPは十分な情報発信のため見直すべきではないか。他市事例のように、施設の紹介やPRの動画をYouTubeで公開するなど映像メディアの活用も検討してほしい。

【事務局】

御意見のとおり全体的にもっとわかりやすく情報発信するようにしたい。

【委員】

あまり費用をかけずに体験イベントなども開催できたらおもしろい。

【委員】

映画やドラマの撮影場所としての使用はないか。雪景色や里山などの原風景を魅力にできる場面もあると思う。

【事務局】

過去にアイドルグループのPV撮影に使ってもらったこともあり、その際は旭川観光コンベンション協会と連携して対応した。全国の廃校施設から選ばれたのは大変ありがたく、今後もそのような機会があれば、フィルムコミッション機能を持つ機関と所管部局で調整しながら対応していければと考えている。

【委員】

ものづくりやデザインにかかわる使い方にもつながれば、デザイン都市としてもいいかもしれない。広報のアイデアを庁内で広く求めるなどの場があってもよいと思う。

【委員】

廃校利活用について、可能な限りの売込活動をすべきと思う。市はどこまでできるのか。仮に直接売り込むことに限界があるのなら、委託料をかけて専門事業者に委託してでも進めるべきと思う。旭川をよりよい街にすることが目的であり、その手法は柔軟に検討してほしい。

【会長】

それでは、委員会の意見としては、廃校施設の利活用にに向けた基本方針の方向性は資料のとおりでよいとする一方で、次のように求めることとしてよいか。

- ・地域の意向も踏まえ、更地にすることも含めた売却、長期・短期の貸付けなども柔軟に検討するとともに、事業計画に関する利活用後の状況確認を続けること。
- ・情報発信の手法を見直し、強化するとともに、民間活力の活用を含めて、可能な限りの売込活動をする事。

【全委員】

(了承)

(4) 閉会

浅利部長から閉会に当たって挨拶した後、会長をはじめ各委員から全体を通しての感想として次のような発言をいただき、閉会した。

- ・ 貴重な機会となった。勉強となった。
- ・ 委員会の意見が市の事業や取組の参考になればと思う。
- ・ 市には多くの部・課があり、それぞれ多くの難題を抱え、向き合っていることを認識した。
- ・ 委員会運営自体もペーパーレス化や議題の厳選による開催回数の減少など工夫されている。他の委員会も同様になることを期待したい。
- ・ 事業の見直しを考えるに当たっては、身の回りのことと同様に、そもそも必要か、その在り方はよいのかと考える重要さを再認識した。
- ・ 議論の中では厳しい発言もしたが、市にはぜひ今後も頑張ってもらいたい。